

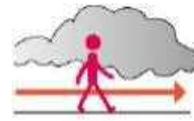
外出先での命を守る心構え

災害などさまざまな理由により、外出先で火災に見舞われる可能性があります。その際に慌てず落ち着いて避難するためには、事前にこういった対応をするのか、安全対策をしっかりと確認しておくことが大切です。

「煙」などの怖さについて **★避難をする際は煙を吸い込まないことが重要**

特性① 煙は、上に広がります

煙は階段や吹抜けを伝って急速に上に広がるため階段を使って避難できなくなることがあります。室内では、まず天井に広がって次第に床面へと下がり全体が煙に包まれます。



毎秒 0.5~1m

(歩く速さ)



毎秒 3~5m

(駆け足の速さ)

特性② 煙は、視界を奪います

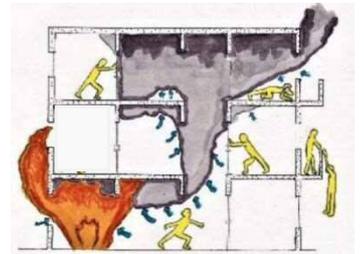
大量の煙で視界が奪われ、避難する方向や今いる所が分からなくなることがあります。

特性③ 煙は、多くの有毒ガスを含んでいます

煙には、一度吸い込むだけで体が動かなくなる有毒ガス*が多く含まれます。
(*一酸化炭素、塩化水素、シアン化水素等)

特性④ 炎や熱気で、室内が高温になります

火災最盛期の室内温度は「1,000℃」を超えることもあります。熱気を吸い込むと気管支や肺などにやけどを負い、呼吸ができなくなります。



火災最盛期の建物内の状況と避難行動イメージ図

**避難するときは
ハンカチを口に当てて姿勢を低く！**



◆火災発生時、黒い煙が充満すると視界不良になり、避難口が見えにくくなることがあります。

避難口が分からない場合は、誘導灯に従って壁伝いに移動します。壁に沿って歩けば避難口が分からなくても方向感覚を失わずに確実に進むことができます。

外出先で火災などが発生した場合

★建物を利用する場合は、自宅や職場と違い、どこからどのように避難すれば良いのか分からずパニックに陥ってしまう可能性がありますので、まずは、避難口や避難経路を自分の目で確認する習慣をつけておきましょう。

また、避難器具がある場合、前もって設置場所（建物関係者は使用方法）を確認しておきましょう。

★火災発生を知らせる警報音や放送をよく聞き、すぐに避難行動をしましょう。

人は危険な状況におかれてもそれを過小評価してしまい、「自分だけは大丈夫」と思ってしまう心理が働いてしまいます。

★煙を避けるためにハンカチなどで口や鼻を押さえて姿勢を低くするなど避難の基本を守りながら、従業員などの避難指示に従って行動するようにしましょう。

★避難誘導がない場合は、近くの誘導標識や誘導灯を探して、その方向に速やかに避難しましょう。誘導灯は、停電になった場合でも一定時間は点灯しているので焦らずに行動しましょう。

★避難する場合は、エレベーターやエスカレーターは使用しないようにしましょう。

火災が発生した直後は、正常に作動していたとしても、乗っている最中に火災の影響で停電してエレベーターやエスカレーターが止まる可能性があります。



避難口誘導灯

外出先で火災などに見舞われた際に落ち着いて避難できるよう日頃から避難口（誘導灯）の位置を確認するようにしましょう



通路誘導灯